

離島の介護職員の意識に関する考察

A Consideration on Consciousness among Care Workers in Remote Islands

吉川 直人

Naoto YOSHIKAWA

青森中央短期大学

Aomori Chuo Junior College

Key words ; 離島 介護職員の意識 離島における介護

I. はじめに

要介護者の増加と介護職員の不足は深刻さを増している。日本全体における高齢化率は、2017年時点で27.3%であるが、離島においては、平均35%という高い数値を示している（国勢調査結果）。団塊世代すべてが後期高齢者となる2025年問題を控えている現在、日本の高齢化の先端の状況下にある離島の介護職員の意識を探ることに本研究の意義がある。離島は、人口の少なさ、高齢化率の高さ、若年層の少なさ、仕事の少なさ、給与水準の低さといった特徴を有している。このような特徴が、介護職員の職業意識にどのような影響を及ぼしているのか調査する。

II. 離島の定義

日本の離島数は、北海道・本州・四国・九州に沖縄島を加えた5島の本土を除き、有人離島と無人離島を合わせ6,847である。（日本統計年鑑 総務省統計局）そのうち、離島振興法による離島振興対策実施地域に含まれる有人離島は258島である。本研究の対象はA県B離島とし、研究調査はB離島の介護職員を対象とする。

III. B離島の概要

平成27年国勢調査（総務省統計局）から人口総数と高齢化率のデータを抜粋し、B離島の特徴について確認した。B離島には3つの町があるがC町29.7% D町33.4% E町35.4%の高齢化率であり、総人口は27,000人である、B離島は、全国の離島の中でも高齢化率は平均より低く、人口は多い離島であるといえる。

IV. 先行研究の動向

離島と介護における研究では、離島における介護の実態調査や高齢者の現状、看取りにおける先

行研究は存在するものの、介護職員の意識についての研究はほぼ見当たらない。そのため、本研究では、離島で働く介護職員の意識に絞って調査を行った。

V. 研究目的

本研究では、地理的要因、社会資源の不足、人口減少など、様々な問題を抱える離島で働く介護職員の意識調査を目的とした。

VI. 調査の概要と結果

(1)調査の概要

離島の介護職員の意識を把握することを目的とし、B離島の介護職員を対象に、自記式質問紙調査を実施した。調査期間は、2018年10月1日～11月30日である。配布・回収は郵送による配布・回収の方法を用いた。配布枚数130部のうち13%の回収率で17部の回答を得られた。

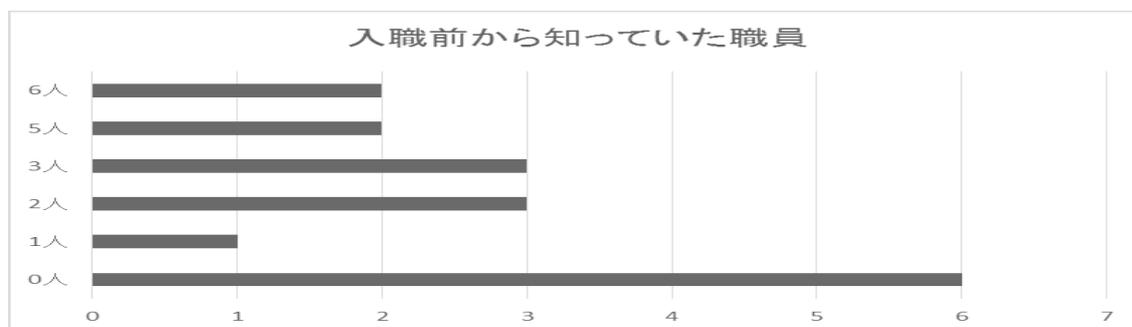
(2)倫理的配慮

研究の目的、プライバシーの保護の方法、データを研究以外に用いないことを調査票に明記し、回答を持って同意とした。また、本研究における調査は、青森中央短期大学研究倫理委員会の承認を得た後に実施した。

(3)結果

離島の特徴として、人口の少なさ、面積の小ささがある。そのため、介護職員にとって、勤務場所である介護施設に見知っている職員、利用者があることが、離島以外の介護職場よりも高いと考えられる。そのことが、介護職員の意識にどのような影響を与えているかを調査した。

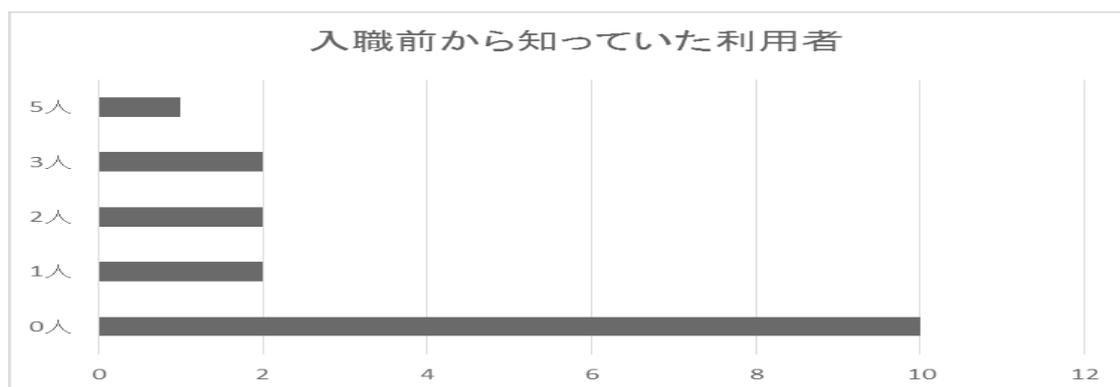
図1 入職前から知っていた職員数 n=17



自由回答より一部抜粋

- ・一人ひとりの職員の方の介護に対する思いや姿勢が見えてきます。
- ・仕事の内容がわからないときは、話をして教えていただいたりしています。
- ・気心が知れているので安心できます。(同一意見複数)

図2 入職前から知っていた利用者数 n=17



自由回答より一部抜粋

- ・自分の身内が昔、お世話になった方。(利用者)
- ・母の同級生の利用者がいてとても身近に感じます。昔話を時々すると、答えてくれる時があります。元気をもらって、次の仕事にとりかかる事ができます。
- ・家族構成もわかっているため、安心できる。

図3 介護ロボット導入の有無 n=17

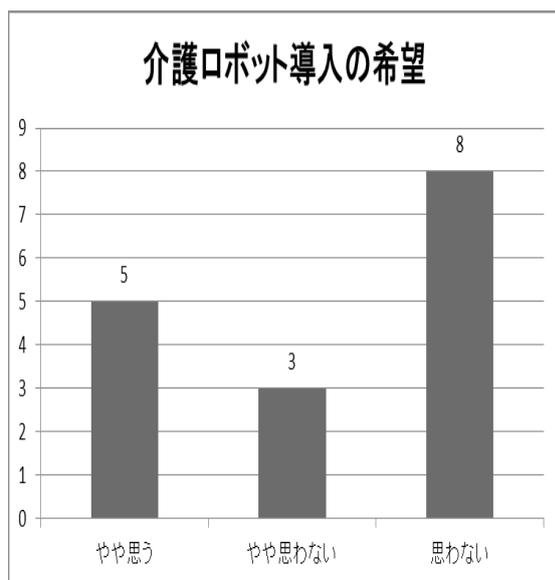
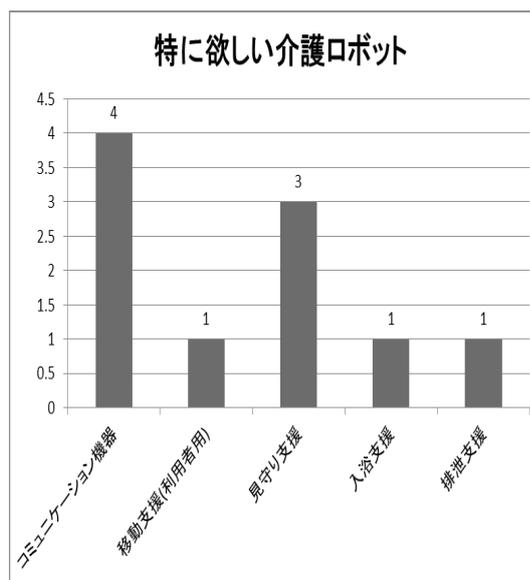


図4 特に欲しい介護ロボット n=17



自由回答より一部抜粋

- ・介護ロボットは助かる反面、増えすぎると少しさみしい感じもします。人の手が必要ないとならない程度のもだと嬉しいです。

以下に、外国人介護職員との勤務と離島における介護の仕事について、カテゴリーに分類される自由意見の分析結果について述べる。外国人介護職員との勤務に関連する意見から6件のコードが得られた。離島における介護の仕事について関連する意見から8件のコードが得られた。それらは図5、図6のように整理できる。

図5 外国人介護職員との勤務

カテゴリー：外国人職員との勤務	
サブカテゴリー	コード
良かったこと	場にとけ込む努力
	仕事への熱心さ
	利用者に気に入られる明るさ
困ったこと	言葉の壁
	文化の違い
	生活スタイルの違い

図6 離島における介護の仕事

カテゴリー：離島における介護の仕事	
サブカテゴリー	コード
良いと感じていること	アットホームな感覚
	「島」という共通点
	ゆるやかで落ち着いた時間
	顔なじみの利用者・家族
良くないと感じていること	距離感が近い弊害
	若者の流出
	離島以外の研修参加が困難
	情報が広まりやすい

Ⅶ. 考察

離島の介護職員は、離島における介護の特徴である、利用者・職員との距離の近さ、見知った関係についてメリットとデメリットを感じている。メリットとしては、安心感・連携であり、デメリットとして緊張感の低下、情報の流出がある。また、本土との距離が遠いため、研修出席に困難を感じている。おだやかな環境による介護は、利用者、職員双方に良い影響を与えると感じている。

Ⅷ. 今後の課題

本研究は、A県B離島のみを調査対象としたため、離島の介護職員の意識に関する研究としては、地域が限定的であった。また、母数の少なさの問題があり、回答者の勤務している施設種別により、回答傾向に変化がある可能性もある。また、本研究は、離島だけでなく、僻地においても当てはまる課題がある。より大規模な調査は今後の課題としたい。

文献リスト

- 1) 稲田 七海 (2005) 離島の介護:福祉政策の展開とローカルな実践をめぐる一考察 人文地理学会大会 研究発表要旨 2005 (0) ,25-25,
- 2) 介護労働安定センター・平成28年度介護労働実態調査結果について
- 3) 越田 明子 (2004) 離島高齢者の生活と養護老人ホームの現況に関する一考察：利用者の語りを中心として 福祉社会学部論集 23 (3) ,17-32,
- 4) 日本統計年鑑 総務省統計局
- 5) 平成27年国勢調査